

教育

札幌大谷大講師・岡部敦さん

道内外で広がるキャリア教育。現状や課題について、北海道キャリア教育研究会代表で、札幌大谷大講師の岡部敦さん(教育制度)に聞いた。

— これまでどのようなキャリア教育が行われてきたのか。

「ニートやフリーターなどの時代に対応するため、『職業観や勤労観の育成』というテーマを掲げて、若者の働く意欲を高めようとしてきた。しかし、これらの課題は若者の消極的態度を改めれば解消できるわけではない。問題は、偏差値による序列化の中、学ぶことの意味は問



キャリア教育の意味について語る岡部敦講師

主体的な進路選択 可能に

われず、良い大学、良い就職にたどり着くことが学習の目的となってしまうという点。学習内容にどんな意味があるかを考えようと立ち止まれば、その分、周りから後れを取ってしまう。それより公式一つを覚えた方が効率が良い、となる」

— こうした価値観では対応できなくなったということか。

「実際は、就職してから短期間で辞めてしまう若者もいれば、ブラック企業もある。たとえ良い大学に進学しても、勝ち組か負け組かは実際にはわからない。就職させるためのキャリア教育、良い大学に向けて頑張らせるためのキャリア教育から脱却する必要がある」

— カナダでは先進的なキャリア教育が行われていると聞く。

「日本語講師を2年間務めたカナダのアルバータ州では、大学進学を目指す生徒でも美容や調理の科目が取れる総合学科が多かった。そうした授業が新たな価値観を学ぶきっかけになる。また、高校卒業後にいったん就職して、学費をしっかりと稼いでから大学で学び直す若者も多い。高校から大学、就職までを一本道と

いう決まった価値観で表しがちな日本に對して、カナダではキャリア形成の道筋が複雑化しているといえる」

— 日本はどのようなキャリア教育を進めるべきなのか。

「学ぶことの意味を重視した教育が大事だ。例えば、福島県のある県立高では、東京電力福島第一原発の事故をきっかけとした放射能教育を物理の授業で取り入れた。これは従来の授業とはまるで違つが、生徒たちは強い目的意識を持って物理に関する理論を学ぶことにつながった。結果として、生徒たちは主体的な進路選択ができるようになり、学校の進路実績を上げることにもなっている」

— 道内の高校生がキャリア教育を受けるメリットは。

「若者が就職先を探す場合、道内の第1次産業や小規模企業は、偏差値主義やグローバル競争の観点からはなかなか意義を見いだしにくかったかもしれない。でも、キャリア教育により本質を見抜く力を養えば、こうした産業や企業の社会的価値もしっかり把握できるようになる」